

平成21年度 第4回 経営協議会議事概要

日 時 平成21年6月23日(火) 14:30～16:30

場 所 事務局第一会議室

出席者 別紙のとおり

議事概要の確認

平成21年度第1回から第3回の経営協議会議事概要(案)を確認した。

議 題

- 1 「第二期中期目標・中期計画(素案)」の作成について (議題1の別紙)

理事(企画・教育研究担当)から、資料に基づき説明があった。

外部委員から、以下のような意見があった。

教員の就職率について、教育系単科大学11大学中、本学は最低である。福岡県の採用枠の絶対数が少ないという地域環境はあると思われるが、県教委や地元教育界との連携が不十分ではないか。また、県教委や市教委からの本学への信頼も不十分であると思われる。第二期中期目標・中期計画においては、地元教育委員会との連携強化や信頼獲得のための抜本的な取組みが本学存続のために不可欠ではないかと思われるが、このことが第二期中期目標・中期計画において、どのように反映され、具体的にどのような取組みを行うのか。

教員採用率の問題は、本学の就職支援担当者(ポジション)の努力だけでは限度があり、どうしようもない現状にあると思われる。この問題は組織的に対応しなければ解決できないのではないかと。能力のある学生が入学しているので、しっかりとした教育を行って、優秀な教員を送り出していただきたい。また、採用試験の受験者数そのものが減っていると思われるので、教員採用率を上げるためにも受験の機会を増やすよう指導していただきたい。

経費削減の観点から、出来れば数値目標を入れていただきたいが、いきなり入れることも難しいと思われるので、ISO認証取得の取組みを行ってはどうか。外部審査を受けるので、厳しいところはあるが、かなり効果的で、電気、水道、紙などの経費削減に確実に繋がる。多くの企業でも取り組まれているので参考にしていきたい。

教職大学院について、今後の動向に危機感をもって心配している。学内におけるサポート体制や関係講座の参画はどうなのか。現場の教員を責任をもって送り出せるような魅力的な教職大学院にしていきたい。

第二期中期目標・中期計画のスタートにおいて、本学の置かれている立場に心配の声があ

る。学長のリーダーシップを十分に発揮していただき、組織や業務の見直し、コスト削減の問題を進めていただかなければならない。具体的な数値目標も大切かと思う。学長以下役員が覚悟をもって大学運営に取り組んでいただきたい。これらの組織を有機的に動かすのは難しいかもしれないが、そういう事態に対応できる組織体制が求められている。例えば、財務部門については、専門的で堪能な者を充てて改革をさせるというのも一つの方法である。是非、学長のリーダーシップを発揮され、体制の強化を図っていただきたい。

大学は、学生を預かった以上、責任をもって教育や指導をしていく必要があり、その中でも基礎をきちんと習得させることが大事なことだと考えている。就職率の問題については、失敗例の見地に立って、検証や解析する必要がある。また、学校現場の卒業生の中から優秀な教員をモデル教師として選ぶなどして、活用してはどうか。

学内に取り組んでいる諸課題に対して、教職員が一丸となって、同じ方向を向いて対応していただきたい。

(欠席した外部委員の意見)

抽象的で具体性がない。そのような目標・計画では意味がないので、その下に具体的な行動計画(アクションプラン)を作って実施してもらいたい。

審議の結果、了承し、役員会へ付議することとした。

2 平成20事業年度に係る業務の実績に関する報告書の作成について (議題2の別紙)

理事(企画・教育研究担当)から、資料に基づき説明があった。

審議の結果、了承し、役員会へ付議することとした。

3 大学機関別認証評価の自己評価書の作成について (議題3の別紙)

理事(企画・教育研究担当)から、資料に基づき説明があった。

(欠席した外部委員の意見)

自己評価書そのものを見せられても外部委員にはよく理解できない。わかりやすい資料と説明をお願いしたい。また、専門家の中で福岡教育大学がどのように評価されているのか、評価結果を是非知らせてもらいたい。

審議の結果、了承し、役員会へ付議することとした。

4 平成20年度財務諸表等の作成について (議題4の別紙)

理事(総務・財務担当)から、資料に基づき説明があった。

審議の結果、了承し、役員会へ付議することとした。

5 平成22年度概算要求事項について (議題5の別紙)

理事(総務・財務担当)から、資料に基づき説明があった。

審議の結果、了承し、役員会へ付議することとした。

6 経営協議会議事概要の公表について (議題6の別紙)

学長から、資料に基づき説明があった。

審議の結果、了承した。

報告事項

1 国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて (報告事項1の資料)

理事(企画・教育研究担当)から、資料に基づき報告があった。

(欠席した外部委員の意見)

教員養成系学部の組織の見直しについて、入学定員を採用数の需要に応じて変動させるのは、如何なものか。福岡県の場合は、いずれ採用数は増えてくる。長期的な視野で検討する必要があるのではないか。

2 財務情報について (報告事項2(1)~(2)の資料)

財務課長から、資料に基づき報告があった。

3 「経営協議会の活性化に関する基本方針」について (報告事項3の資料)

学長から、資料に基づき報告があった。

(欠席した外部委員の意見)

経営協議会は、形式的に意見を聞いているだけになっている。そのため、今回の「経営協議会の活性化に関する基本方針」の決定は非常に良い取り組みである。

経営協議会では、外部の者にはなかなか大学内の課題が見えてこない。もっと課題を掘り起こして、経営的視点に立って議論を行いたい。

その他

1 次回の開催日程について

次回の会議を、平成21年9月29日(火)14:30～、事務局第一会議室で開催することとした。

2 学外委員会からの意見等について

(欠席した外部委員の意見)

経営協議会では、議題の説明等は、要点だけにしてほしい。事前に大部な資料を送りつけられても、学外委員にとっては目を通すことはできない。

今後、実質的な議論をするためには、志願倍率、入学者の成績、学生の入学後の学力向上や成績、卒業生の進路状況調査結果等の基礎データを是非示してもらいたい。

大学教員評価結果についても、学生による評価、研究成果等を含め匿名でもいいので出してもらいたい。

教育と研究の成果が分かるようにコンパクトにまとめた資料を提示してもらいたい。

大学としては、あまり就職率の動向に左右されないで、「教師になりたいという志をもった学生」を育ててほしい。また、民間企業に勤めても「さすが福教大」といわれるような学生を育ててほしい。

地域貢献については、様々な分野で貴学に貢献いただいておりますが、それぞれの取り組みがバラバラに行われている感があり、今後は組織としてより体系的な事業を実施してほしい。大学としての社会連携が見える体制を構築してほしい。そのことにより高い評価が得られ、文部科学省等からの財政支援も受けやすくなるのではないかと。

福岡教育大学は、長年にわたる伝統の中で、事務局が縁の下を支えているようなイメージがあるが、大学存続のためには、事務局が経営面でリードして頑張ってもらいたい。そのためにも、事務局が学長・理事等をどのようにサポートするかが大きな課題である。

変化を好まないために意識が国の時代のままの教職員がいて、危機感が全く感じられない。大学における課題を掘り起こして、迅速に解決していかなければ進展はない。仲良しクラブでは、新しいものは生まれてこない。

教員養成単科大学の存在意義を明確にし、大学の特徴を生かして、生き残りをかけてやっていただきたい。

説明資料等

- 議題 1 の別紙 ・ 「第二期中期目標・中期計画（素案）」（案）
- 議題 2 の別紙 ・ 平成 20 事業年度に係る業務の実績に関する報告書
- 議題 3 の別紙 ・ 大学機関別認証評価 自己評価書
- 議題 4 の別紙 ・ 平成 20 年度財務諸表等（案）
- 議題 5 の別紙 ・ 平成 22 年度概算要求事項（案）
- 議題 6 の別紙 ・ 法定会議議事概要の公表について（案）
- 報告事項 1 の資料 ・ 国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて（通知）
・ 平成 20 年度福岡教育大学監事監査報告
- 報告事項 2 (1) の資料 ・ 財務報告書【資料編】
- 報告事項 2 (2) の資料 ・ 財務指標【グラフ編】
- 報告事項 3 の資料 ・ 経営協議会の活性化に関する基本方針